

1 目指す学校像

生徒一人ひとりを大切にし、保護者や地域に信頼され、生徒及び教職員が誇りと自信が持てる学校

2 本年度の教育目標

(1)基礎学力の定着と学力の向上 (2)キャリア教育の実践と進路保障 (3)基本的な生活習慣の確立  
 (4)豊かな心をはぐくむ教育の推進 (5)国際理解教育の推進 (6)部活動の活性化と教育環境の整備  
 (7)家庭や地域と連携、開かれた学校づくりの推進

3 評 価

(1-1)

項 目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自 己 評 価	学校関係者評価	今後の課題	
教育課程・学 習指導	・生徒数の確保と同時に、生徒の進路に応じた選択科目の工夫(教育課程の編成)の検討が必要である。	・コース制・選択科目の充実、進路希望の早期把握等、進路実現を目指したクラス編成を構築する。 ・生徒数確保に全力を注ぎ、効果的な教育課程の編成が可能となるよう努める。	・中高連携による交流事業をより充実させるとともに、広報活動をより一層努め生徒数確保を図る。 ・さまざまな機会を利用して、生徒一人ひとりの進路・適性に応じたコース選択、科目選択が行えるように情報提供や周知を図る。	・中高連携による交流事業として、交流授業やキャリア教育講演会、人権教育講演会、中高弁論大会など、積極的にさまざまな活動を行い、充実した交流が行えた。 ・多様な生徒の進路希望に対応するためのコース制は一定成果を出すことができたが、今後生徒数の減少に対して、コース制の効果を保ちながらこの生徒を維持することが難しいことから、教育課程の工夫をしていく必要がある。	B	・「学校では、学校の教育活動に関して、家庭への連絡や情報提供が適切に行われている。」に対する肯定的な回答の保護者の割合は71.7%、同じく「学校のホームページを見たことがある」に対しては17.5%である。 ・学校の教育活動を適宜発信し、生徒数確保が必要である。	・2年次以降のコース選択にあわせたクラス編成を行った場合、人数や男女比に偏りがあり、今後クラス編成とコース選択が両立できるように検討する。
	・定期考査計画表を作成するに当たって、定期考査の試験範囲の提示をどのようにするかなどを検討する必要がある。	・家庭学習の習慣を身につけさせる。 ・補欠補習の強化、不合格科目を次の学期へ持ち越させないよう指導を徹底する。	・各学期の不合格科目については長期休業中の補習を義務付け、課題や小テストなどにより再評価する。 ・定期考査2週間前から家庭学習計画を作成し、実施後自己評価を行う。	・各教科取組に多少の差はあるものの、基礎学力の向上の成果は一定得られている。学年末段階での成績優良者の割合も、・・・ ・「計画的に学習に取り組んでいる」の項目では、昨年度とほぼ同程度の横ばい状態である。また、「毎日家庭学習をしている。」の項目では、昨年度に比べ、7.6%の減少で家庭学習への取組が必要である。	B	・「子どもは学校の授業に満足している」に対する肯定的な回答の保護者の割合は71%、同じく「学校ではきめ細やかな学習指導が行われている」に対しては64.5%、「学校の指導は子どもの学力を伸ばしている」に対しては61.5%である。 ・更なる授業改善が求められる。	・家庭学習の習慣が身につけられるよう、5教科での課題などを検討し、学校として取り組むためのシステムの構築を行う。
	・本校の取組の『未来プロジェクト』を特別な取組でなく、日常的な取組として実施していけるように整理する。	・基礎学力診断テストを活用し、生徒の学力の把握と基礎学力の向上に努める。 ・進路目標を早期に決定させ、目標に沿った学習活動を指導する。	・基礎学力診断テストや定期考査の結果を生徒自身がポートフォリオ(3年間の長期目標)へ記載し、自己自身で分析や課題の把握を行うことで、自己目標を常に意識し、授業や部活動へ取組めるようにする。	・「将来の夢や目標を持っている。」 「高校卒業後の進路を決めている。」の項目では、80%強の生徒が肯定的な回答をしていることから、将来の目標や進路への意識はあるが、日々の取組が不十分である。	B	・「子どもは自分の夢や目標を実現するための努力をしている。」に対する肯定的な回答の保護者の割合は70.8%、同じく「学校では一人ひとりの生徒の夢や希望を大切にした指導をしている」に対しては78.9%である。	・基礎学力診断テストやスタディーサプリの活用が、効果的に実施できるように検討する。

<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年から3年まで系統的な指導計画を確立する必要がある。また、保護者への説明会なども含めて、1年次、2年次、3年次それぞれに必要な内容を精査し整理することが密陽である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国模試等を積極的に受験させ、自己の力を把握し、努力させるよう指導助言を行う。</li> <li>・補習等を計画的に実施する。</li> <li>・面接マナー等の指導及び教員間で共通認識をするための校内研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路LHの充実、補習・全国模擬試験への積極的参加を促す。</li> <li>・就職・進学ともに各種資格試験への挑戦をさせることで成果を実感させながら希望進路の実現を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生73名中、国公立6名、私立13名、短大10名、各種専門学校等23名が進路を決定することができた。また、昨年度の国公立と同様に5名以上の結果が得られた。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校で生徒一人ひとりに対する進路指導が適切に行われている」に対して肯定的な回答する保護者の割合は76%、同じく「学校では生徒に対して進路選択に関する情報選択に関する情報提供が適切に行われている。」に対しては75.2%である。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に関する情報を早めに提供することや、タイムリーに提供するために、3年間を見通した計画を構築する。</li> </ul>
<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装、頭髮、装飾品などの指導を全教職員が共通理解のもと、さらに徹底する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立を図る。</li> <li>・登校時指導を徹底し、遅刻・欠席の削減を図る。</li> <li>・生徒会活動、ホームルーム活動、部活動の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部を中心に全教職員が協力し、毎日、登校時昇降口指導を実施し、毎日生徒の様子を確認する。</li> <li>・生徒会を中心に、行政機関や警察、地域の各種団体と連携を図り、地域貢献活動の強化を図る。</li> <li>・小さな出来事を見逃さず、機動的に全校集会や学年集会を実施し、指導を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時の昇降口指導は、遅刻防止や生徒の様子を観察するなどの未然防止としても非常に効果があった。</li> <li>・女子生徒のスカートの指導には課題があるが、今後も地道に指導を続ける必要がある。</li> <li>・生徒の生活態度や校外での生活も落ち着いている。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の規則や決まりは適切だと思う」に対して肯定的な回答の保護者の割合は84%、同じく「学校では生活指導(頭髮、服装等)が適切に行われている」に対しては82.6%である。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服装、頭髪などの指導を全教職員が共通理解のもと、さらに徹底する。特に女子のスカートの指導は預かり指導も検討しながら粘り強く指導する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室では、バイク通学許可の生徒だけでなく、バイクの免許を所得している生徒全員を対象に実施し、更なる交通安全教育の徹底を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室の開催を行い、交通モラルの意識高揚を図る。</li> <li>・生徒理解を深め、生徒の心のサインを見逃さず、生徒支援システムを構築し、カウンセリング体制の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二輪車安全運転教室を実施し、バイク・自転車の定期的な点検を実施する。</li> <li>・交通違反者については、保護者同伴で講習会を実施し指導する。</li> <li>・特別支援コーディネーター、人権担当教員、養護教諭、各学年部の連携を図り、生徒支援体制の組織化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室を実施することができたが、昨年度に比べ違反件数が増加している。特にスピード違反が増加しているので指導の徹底が必要である。</li> <li>・生徒支援会や情報会など定期的に実施し、生徒に関する情報交換を行い、生徒理解につなげた。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校では健康・安全確保に関する指導(心身の健康保持、交通安全、防災教育等)が適切に行われている」に対する肯定的な回答の保護者の割合は89.9%である。</li> <li>・交通安全キャンペーンなどを生徒会が中心に行い、啓発活動を行うことができている。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導の徹底と、継続した啓発を行い、更なる交通安全教育の徹底を図る必要がある。</li> </ul>
<p>保護者・地域住民等との連携(開かれた学校づくりの推進)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの整備を行い、リアルタイムの情報発信を行うための体制を作る必要がある。</li> <li>・様々なボランティア活動へ積極的に参加できるように、啓発する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会への参加率向上を図る。</li> <li>・学校広報誌「青い鯉」の充実を図り、生徒の様子や学校の取組の周知を図り、教育活動に対する理解を深める。</li> <li>・地域との連携強化、地域行事への積極的参加を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会と授業参観、保護者個別面談を組み合わせるなどの工夫をする。</li> <li>・地域行事やボランティア活動への生徒の積極的参加を促す。</li> <li>・クラブ活動を活用し、老人施設や介護施設等へ積極的に訪問し、地域貢献を促進する。</li> <li>・ホームページのリニューアルを行い、適宜更新を図り、積極的な情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足摺ロードレースやあしずり駅伝、樺まつりなどの地域行事に参加しボランティア活動を行うことができた。</li> <li>・中高連携の通信やPTA新聞などを発行することができた。</li> <li>・9月以降はホームページをリニューアルして、学校教育活動を積極的に掲載し啓発を行った。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校のホームページを見たことがある」に対する肯定的な回答の保護者の割合は17.5%である。</li> <li>・9月以降はホームページをリニューアルして、とも見やすくなった。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月以降の体制を維持し、定期的な更新と情報発信を行えるようにする。</li> <li>・保護者へのホームページの周知を図る。</li> </ul>